

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400058		
法人名	社会福祉法人中泊町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームしおさい		
所在地	〒037-0512 青森県北津軽郡中泊町小泊朝間1番地25		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・当ホームは立地条件が良く、周辺環境にも恵まれています。1階が町直営の診療所になっており、通院等とても助かっています。ホーム周辺には、消防署・弘南バス案内所・小学校グランド・商店があります。また、同法人経営の通所・訪問事業所・支援ハウスが隣接されております。</p> <p>・海、山に囲まれた自然豊かな地域で、四季を感じて頂ける工夫、五感への働きかけに力を入れています。地域で自分らしく生活できるようにと職員は心を一つにし「共に支えあい笑顔のある生活を目指して」を提供させて頂いております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然豊かな地域にあり、四季の移ろいを感じることができる環境である。また、ホームの1階は診療所になっており、医療面でも安心できる環境である。光や音に配慮し、共有空間は季節に合った飾りつけをして、居心地の良い雰囲気作りに工夫されている。</p> <p>地域のイベントには積極的に参加し、ホームにも近隣住民が気軽に立ち寄りやすいよう働きかけたりと地域との交流が盛んに行なわれている。</p> <p>職員は入居者一人ひとりに寄り添い入居者本位となる支援をしており、研修や勉強会を通じて個々のスキルアップにも努めている。リビングや食堂では、職員と入居者が和やかに談笑する姿が多く見られた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支えあう 笑顔のある生活をめざして！！」を心強く、心からの笑顔で信頼関係を築き、助け合い支えあいながら、その人らしい生活を送れるようにご支援しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を掲げている。管理者・職員は会議等でホームの役割を掘り下げて確認し合い、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントには積極的に参加し、保育所・小学校発表会の招待状にはとても喜び応援されております。	近所の小学校や併設のデイサービスで行われる催し物や地域の祭り等に入居者は職員と共に出かけている。管理者、職員は、気軽にホームに立ち寄っていただけるよう近隣住民などに働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は地域の様々な研修、連携会に参加しております。また、ホーム周辺散歩、イベント参加にて啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を行っています。入居者の状況や待機者の状況を説明し、介護に理解して頂き、また災害状況に合わせた避難を常に話し合っております。	運営推進会議ではサービスの実際や評価結果などが報告されている。会議での意見やアドバイスは、避難方法の見直しなどに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議においての相談・意見交換を行い、役場へ出向いたときも相談しています。	町の担当者とは気軽に相談できる関係が築かれている。管理者は相談したいことや確認したいことなどがあれば運営推進会議に留まらず窓口に出向き相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが2階であり、非常階段を含め3箇所ですが、日中は鍵をかけず、見当識障害、徘徊のある方等の行動は見守り・一部介助にて階段からの転落防止に努めております。「身体拘束ゼロへの手引き」を提示し、周知に努めております。	指定基準における禁止の対象となる身体拘束については研修などを通じ全職員で共有している他、ケア場面で再確認もされている。個々の入居者が抱えている生活に伴う事故リスクについても、家族と共有されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については職員研修参加、回覧にて周知を図っております。職員、一人ひとりの意識が重要なので機会あるごとに話しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点において、利用されている方はおりませんが必要性を見極め対応したいと考えております。金銭預かりが必要な方には、同意書を頂き管理しております。職員の周知も行ってあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は勿論、必要と思われるときは訪問も行い、時間をかけて説明しております。介護報酬などで利用料金の変更がある場合は、書面の配布も行い説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には、日常の中からさりげなくご意見を伺うようにしております。ご家族様には面会・訪問により状況報告しながら意見を伺っております。職員には、毎日の申し送りや会議にて周知を図っております。	サービスの更なる質の向上には入居者や家族の意見が不可欠と考え積極的に吸い上げている。それらの意見は利用する側の立場に立って前向きに検討され運営に反映させている。外部の苦情申し出機関については廊下に掲示する等して、周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の職員会議、または状況にあわせ施設長、事務局への報告、連絡、相談を行っております。年1回は代表者との個人面談があり、意見を出せる機会を頂いております。	職員が気軽に意見を提案できるよう、管理者・代表者は多様な取り組みを行っている。職員からの意見は入居者の重度化への対応等に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年1回、職員との個人面談を行い、要望・資格取得・職員の疲労やストレスの要因についても相談しながら整備を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、研修にて知識取得し、サービスの質の向上をめざすように、研修への機会を与えております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にあるグループホーム事業所との交流会が3ヶ月に1回、診療所の地域連携会月1回、包括開催会議が2ヶ月に1回、そのほか機会ある度に参加させて頂いております。周知は会議や回覧などで行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様との面談にて、入居前の情報を念頭に置きながら不安や要望の把握に努め、安心して頂くようにしております。ご家族様の前では話しづらいようなことはその場では尋ねないよう配慮しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の前では、話しづらい事は訪問・電話・来所時に伺うようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談においてご本人様、ご家族様の思い状況等を確認し、必要としている支援を見極めるようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	謙虚な気持ちで支えあい、「喜怒哀楽」を理解し、その人らしい日々の生活支援を行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など状況報告・傾聴に努め、ご家族様の支援の必要性を話し、協力関係が築けるように努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスを利用されていた方には、交流継続を図り、行きつけの理容院・美容院への外出、友人の面会など、ご本人様が安らげるひとときを過ごせるようにしております。	一人ひとりのこれまでの関係性を把握され、馴染みの店や家族等の理解と協力を得ながら入居後もその関係性が維持できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格・周辺症状を把握し、入居者同士の会話の見守りを行い、関係が上手く行くよう職員が調整役で支援しております。管理者は変化が見られたら、居室にて傾聴し問題ないか伺っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となられた場合においても、担当ケアマネとの連携を行い、可能な範囲内で相談など行いたいと思っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で意向を伺ったり、言葉・表情等観察し真意の把握に努め、困難な場合においても、同様に接しご家族様への相談も行っております。	個々の思いや意向をアセスメント用紙等に整理するなどして全職員で共有している。困難な方については日頃の関わりなどで汲み取った思いや意向を職員で持ち寄り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅の情報収集に努め、一日も早く馴染んで頂けるようにしております。亡き人の位牌も持ってきて頂いています。また、その方の状態に合わせた対応をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや心身状態の変化についても、申し送り・記録にて周知を図っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様には、担当者会議に出席頂き意向などを伺っております。また、日々の生活からも把握し月1回の職員会議にて検討しております。職員からのサインにて周知が出来たことを確認しております。	本人、家族の意向、職員のアイデアが反映された本人本位の介護計画が作成されている。計画は本人の状態等に変化があればその都度、変化がない場合でも認定有効期限内に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルにて健康管理面、日々の生活状況を記載し、申し送りなどにて全職員が共有できるようにしております。状態変化に気づいたことを計画への反映、実践にいかしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方から来られたご家族様への対応・外出・外泊等状況に合わせた対応を可能な限り行っております。ご家族様との外食、普段自宅を見たいときは職員が連れて行きます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人が経営するデイサービスとの合同夕涼み会・地域の祭り・イベントへ出かけ・ご家族様との交流会・カラオケ等楽しんでいきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望される病院への通院介助、受診援助を行っております。1階がかかりつけ医となっております。いつでも相談できる状況にあります。変化があったときは、随時ご家族様への連絡も行っております。	入居者は希望するかかりつけ医に受診されている。ホームでは送迎、専門医への変更等、個々に必要とする支援を行っている。受診結果は診断・病状等に変化があればその都度、定期受診については家族の意向に沿って報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身の状態変化におきましては、常に申し送りを行い、訪問看護利用者はありませんが、1階の診療所看護婦への相談を随時行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院可能な病院は1時間ほど離れた所があり、かかりつけ医からの紹介状にて入院先との連携も行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、検討の必要性を機会あるごとに話題にしております。1階が診療所ですが、夜間・休日等は利用できませんので終末期においては困難さがあります。	入居契約書等に重度化した場合や終末期の指針を明記し、入居の段階で家族に説明している。本人の状態に変化があった場合には、その都度意向を再確認されている。	終末期と診断された場合にホームでできる最大限のケアなどについても文書化し、関係者間の意思統一を図ることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当講習会研修を受講しております。また、夜間時は一人であることから、応援要請においても決めており、緊急時の対応が素早く出来るように周知しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災・避難訓練の実施。今年の1回目は大津波を想定し、3階に避難する訓練を行いました。運営推進会議に報告、意見も伺っております。地域との協力体制強化に努めております。	ホームの立地場所から想定される全ての災害に備えた訓練を行っている。職員はそれぞれの対処方法を身につけている。行政等による避難方法等の見直しがあればホームの訓練マニュアルを点検し、必要に応じ更新している。	夜間帯における入居者の安心・安全確保の視点からも、近隣住民との具体的な協力体制の整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格などを把握し、援助が必要な時も相手の気持ちを考え、さりげない優しい口調でケアすることを心がけております。	研修等を通じ、誇りやプライバシーを損ねないケアについて具体的に確認し合っている。ケアの場面場面における職員の言葉かけや対応は丁寧で、誇りや羞恥心にも配慮して支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中から、その方の好み嫌がることの把握に努め、自己決定が出来るように心がけております。外出やレクなどにおいても強制的にならないよう行っております。難聴のある方には、耳元でゆっくり話しかけたり、ジェスチャー等にて支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、その時の体調や気持ちを尊重し、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には入居者が選んでおりますが、外出時は季節に合った服装のアドバイスを行い、髪型は美容院に来て頂き好みの髪型にして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者を利用しておりますが、週2回はホーム独自のメニューにし、地域の食材を使い喜んでもらえるように工夫しております。業者のメニューには郷土料理が組まれております。辛いもの・硬いものがダメな方には工夫提供しております。	入居者の希望や能力を踏まえ、食材の下準備等に参加できるよう支援されている。嚥下能力の低下された方への配慮等の他、誕生日には本人の好きな料理を提供している。入居者は職員との会話を楽しみながら食事時間を過ごされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事提供を行っております。摂取量のチェックは食事、水分も記載し確認しております。歯の状態に合わせた工夫もしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケアは勿論ですが、毎食後の誘導にて口腔ケアして頂きます。上手く洗えない方には職員が手伝い、夕食後は入れ歯洗浄剤に入れて消毒しております。入れ歯があわなく痛みを訴えるときには、歯科受診を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンの把握をしております。個別に陰部洗浄、尿とりパットの確認、見当識障害のある方は時間誘導にてトイレでの排泄をしていただいております。	離床を促して活動性を高めたり、一人ひとりの排泄パターンや表情、しぐさを捉えてトイレ誘導するなどして、入居者がおむつに頼らずトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて確認し、下剤の必要な方には下剤投与を行っております。毎日の歩行運動・食物繊維の多い食べ物を提供したりと個別の対応もいたしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は週3回にしております。ホーム側の都合に合わせた設定にしておりますが随時変更を行っております。順番への配慮も忘れず行っております。	自宅での入浴習慣やこだわりなどを把握され、入浴希望に柔軟に対応している他、希望者は併設のデイサービスで温泉浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態観察を行い不眠の原因把握に努めております。日中も昼食後の休息は居室にて休まれる方もいます。眠剤服用されている方は日中への影響がないか確認、夜間はふらつき・転倒しないよう見守りしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個別ケースに入れており、いつでも確認できるようにしております。受診後は必ず報告し周知を図っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で出来ること、出来ないことの把握に努めています。洗濯物の手伝い、テーブル拭き、おしぼり等強制的にならないようお願いしています。山菜処理は全員が行い会話も弾み、にぎやかに行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	予約無しに理髪店に行きたいと希望あれば行き付けの理髪店に連絡し、連れて行きます。また、行事での外出、地域のイベント等外出の機会を多くできる工夫に努めています。	ホーム内に閉じこもらないよう天気の良い日は屋外への散歩などを働きかけている。希望を募って遠方に出かけている他、個人的な外出希望にも対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの安心感は理解できますので小遣い程度は所持させております。買い物も自由にできるように同行しております。内容は記載しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は遠慮なく使えるようにしております。手紙が来たときは読んであげることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出せる工夫をしております。刺激におきましては、ご支援させていただく職員が不快音にならないようにしております。入居者様からの要望も取り入れ居心地の良い空間作りをしております。	共同空間や食堂は明るく、温度・湿度等も適切に管理されている。一日の大半を職員と過ごすリビングには入居者が落ち着いて過ごせるようソファを配置している。色づいたモミジをさりげなく飾る等、季節の移り変わりを実感して過ごせるよう心配りされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は殆どの方がホールで過ごされますので、席順など工夫し会話が弾むようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは、もと入院室であり病院のイメージが強いようですが、ご本人様の使い慣れたもの、ホームでの写真などで居心地の良い居室になればと工夫をしております。	使い慣れたものや好みのものを自由に持ち込んで良いことを文書で明記している他、入居時等に口頭でも説明されている。入居者は思い出の品々をベッドサイドに飾ったり、使い慣れた日用品などを思い思いに持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはドアがないので「ノック」できません。ブライバシーへの配慮として鈴をつけ、カーテンを開けておく等工夫をしております。職員用はドアがありますので、入居者も使えるようにしております。身体状況に合わせ環境整備を行っています。		